

語り手 大原寿美子さん  
(明治40年生まれ)  
昭和55年11月22日収録

あらすじ

金持ちで欲ばり爺の隣に、貧乏な爺がいた。金持ち爺は隣の土地を我が物にしたく思い、隣人の爺に、「今夜は庚申だから、謎を出す。お前が解けば自分が引越すが、解けなければおまえの土地を引き渡せ」と言い、「夜中のケンと、夜中のキヤロとかけて何と解く」とかける。隣人はやむなく明朝までの期限内で承知し、思案しながら庚申の神さん待つ。やって来た庚申さんを送り出したら、よその犬が鳴き出した。庚申さんが「夜中のケンが鳴きよ

### 庚申の夜の謎

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

## 欲張ってはいけない

やく。爺は「ありがとうた。ごいいます」と礼を言っで別れる。

欲ばってはいけないという話。

解説

夜が明けると早々に金持ちの爺が来て「解けたか」と聞くので「夜中のケンとは犬のこと」また「夜明けのキヤロとは鶏のことです」と答えると、大原さんによれば、こたは「お母さんからお聞きになった話と言っておりわが国の昔話の話を分類した関敬吾『日本昔話』に載っていた。

話大成』から、その戸籍夜を徹して語りあい、酒を捜すと、「笑話」の中食の宴を催して夜明けの「巧智譚」「業較べ」待ち、厄を逃れようという「庚申待の謎」という民間信仰を庚申待というのがあり、これに該当している。このように智頭町に伝えられている昔話「庚申さんの謎」も、わが国に昔から語られていた昔話の系譜に一致しているのである。

ところで庚申は60日には「子どもの頃を思い出す1度巡ってくるが、この話の中には、さりげなく庚申の神は崇りやすい恐ろしい神であるといわれ、智頭町で「庚申さんの夜は夜なべ仕事をする」とアワ(粟)がカヤ(茅)になる」といわれ、農業の神である一面も見せている。そしてこの日は夜を徹して語り合っている。これを「三戸虫が体を抜け出して、天帝にその罪科を報告し、それによって天帝は病気を与えたり、寿命を縮めたりする」といわれる。三戸の昇天を阻むためにこの夜は

（元鳥取短期大学教授）  
（水曜日に掲載）